

馬込三寸ニンジンの夏まき栽培における播種日が栽培日数に及ぼす影響（2019年試験）

海保富士男・沼尻勝人・遠藤拓弥・木下沙也佳*

（園芸技術科）*島しょセ大島

【要約】「馬込三寸ニンジン」の夏まき栽培における収穫までの日数は、根部のつまり状況から判断すると6月下旬～9月中旬播種では110日以上、8月下旬播種では135～150日となり、9月播種では十分に肥大しないため収穫できない。

【目的】

「馬込三寸ニンジン」の栽培歴を作るため、春まき栽培における播種から収穫までの栽培日数を調べた結果、根部の形状（先端部のつまり）から判断して2月下旬播種で140日以上、4月中旬以降播種で125日程度となることがわかった。引き続き、夏まき栽培についても播種日が根部の形状と栽培日数に及ぼす影響を明らかにする。

【方法】

「馬込三寸ニンジン」を2019年6月26日から9月12日まで1～2週間ごとに70cm幅ベッドに条間15cmの4条で条播し、5葉期に株間9cmに間引いて栽培した。施肥は成分量で基肥としてN:P₂O₅:K₂O=10:15:9kg/10a、追肥として6:6:6kg/10aを施用した。播種後95、110、125、135、150、180日頃に収穫して根部の形状や生育を調査した。

【成果の概要】

1. 収穫期の目安とする根の形状（つまりの程度3以上）は、6月26日、7月10日、7月24日、8月7日および8月13日播種では、播種後95日のつまり程度が2.5でやや不十分だった。その後、110日ではつまり程度が3.5で収穫可能となり、さらに125日では4.0でつまりが大変よくなった（図1）。
2. 6月26日播種では、根長が8cmとなり、「馬込三寸ニンジン」としてはやや短めだった。一方、7月10日～8月13日播種では、播種後110日以降で根長が9～11cmだった。
3. 8月22日播種では、播種後125日までつまり程度が2.5以下でやや不十分だが、135日では3.0となり収穫可能な形状で、根長は11cmだった。
4. 8月29日播種では、播種後135日でもつまり程度が2.5以下でやや不十分だが、150日ではよくなり3.0となり、収穫可能になった。根長が12cmで、8月中旬までに播種したものに比べてやや長めの形状であった。
5. 9月5日と9月12日播種では、つまり程度が播種後150日で2.0、さらに180日でも2.5と不十分のままで収穫に至らなかった。また、8月播種では根重が120gだったのに対して80gと小さく（データ略）、根長が12cmとなり細くて長い形状をしていた。
6. 以上、「馬込三寸ニンジン」の夏まき栽培で根部の形状から判断して、当地（立川市）の播種限界は8月下旬であることがわかった。また、収穫物に品種特有の根部のつまりを重視するならば、6月下旬から8月中旬までに播種するのがよいと考える。

【残された課題・成果の活用・留意点】

春まき栽培と合わせて栽培歴を作り、栽培マニュアルに記載した。

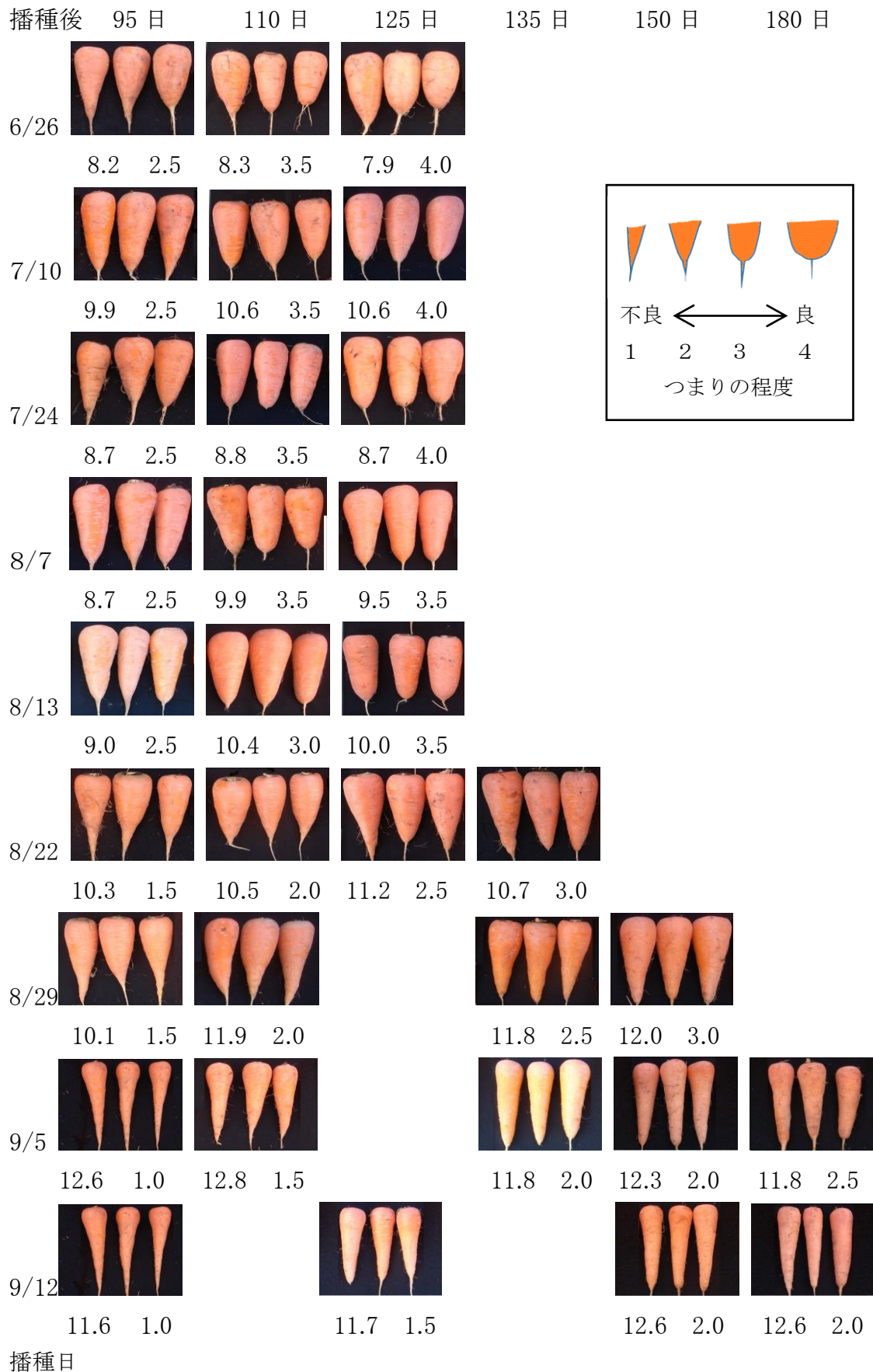


図1 播種日が馬込三寸ニンジン根部形状に及ぼす影響
写真下の数値 左:根長(cm), 右:先端部のつまりの程度